

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	高島市カンガルー教室（児童発達支援センター「エール」）		
○保護者評価実施期間	令和7年8月25日		～ 令和7年9月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23人	(回答者数) 23人
○従業者評価実施期間	令和7年8月25日		～ 令和7年9月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15人	(回答者数) 15人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月19日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 個々に担当が付き、児に合わせた支援を行っている。 多職種連携で多角的視点から支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援計画の作成段階から多職種の視点でアセスメントを行い、児に適した支援計画を作成している。 個別に園訪問を行うことで、情報共有と相互理解を図り、インクルージョンの推進に役立っている。 担当が児の気持ちの変化に気付き、安心して過ごせることを大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別に担当は決まっているが、担当以外の視点や多職種の視点から支援内容や方法を考える時間を持つ。
2	<ul style="list-style-type: none"> 保護者支援の充実に努め、安心して通所できる雰囲気づくりを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 集いや親子の時間では、それぞれの親子にあった遊びを提供しながら、児へのかかわり方を保護者と一緒に考えている。 保護者のグループカウンセリングでは、保護者同士が子育ての悩みを共有したり、こどもの発達や特性について学んだりできるように支援をしている。 児の日々の成長や困りごと、発達の見通しなどを共有できるように、保護者と指導員の懇談の時間を通所時に毎回持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> グループカウンセリングの持ち方については、多職種が連携し、多角的視点で協議し充実を図る。 事業所内で行っているカンファレンスで情報共有し、児や保護者によりよい支援が提供できるようにする。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 個別療育を実施する専用スペースが不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 構造上きちんと仕切られていないため、となりで療育をしている音や声が聞こえ、集中して療育に取り組めないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> パーティションの使用や、用途が決まっている部屋でも多目的に使う、時間差で療育内容を考えるなど、事業所内で行っているカンファレンスで話し合いをしながら、個々にスペースが使用できるように工夫する。
2			
3			